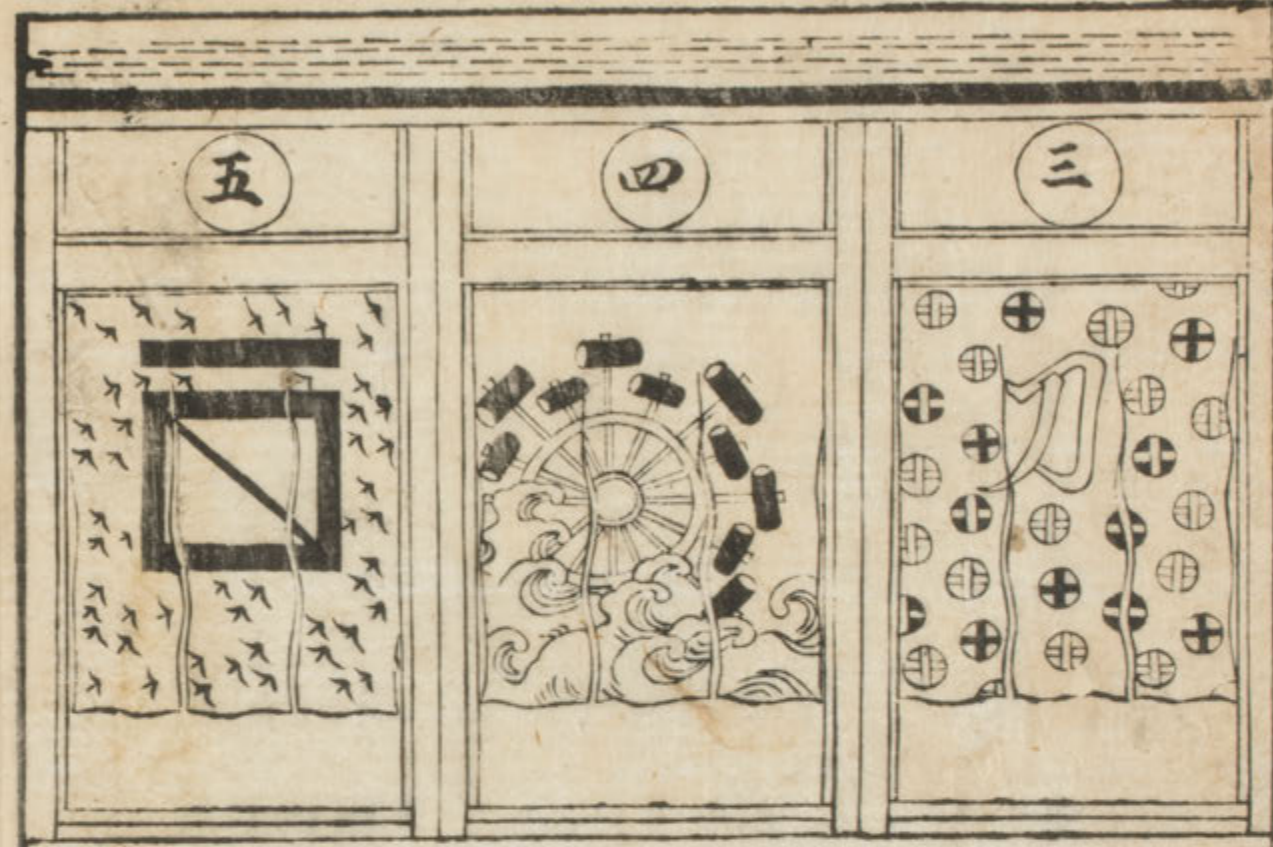


日本水滸傳

卷六

大正刊本





買進の世れはやとす時
 泉列ふかたれたる力屋乃
 業代

山城ふかたれたる三あり
 舟車

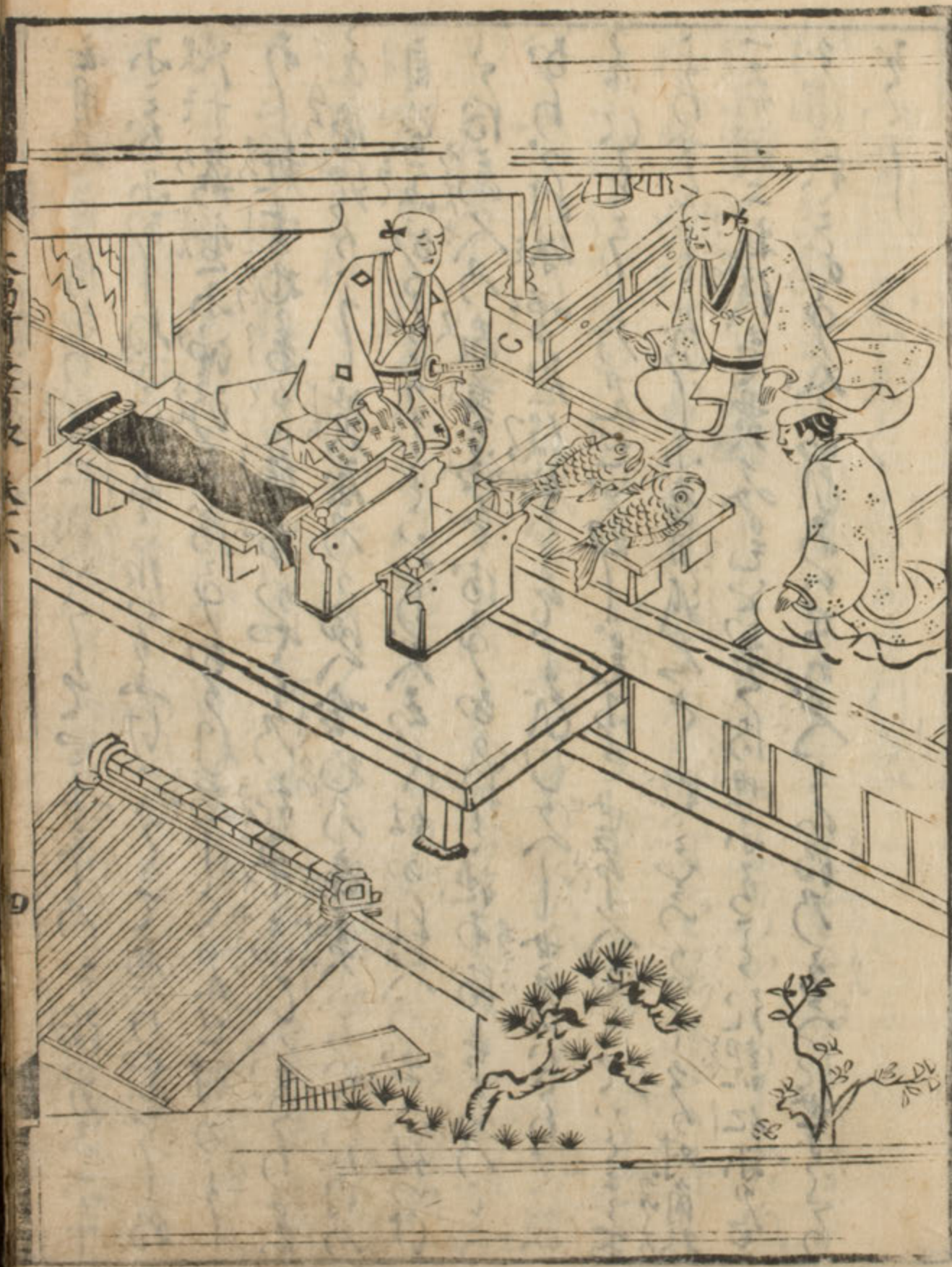
背負とる所八の外掛
 今乃於ふかたれたる
 三丈ぬといふ

中一 銀乃なる所本門口乃換

唐土文王乃國の七十里で方ありとやとりその内のふま子乃
 本乃極め色一間で方の畠地小極を本極とんる色
 家屋敷とあへん樂じふる所ありあり家小紙あ乃四
 教習乃大漆小年越屋乃何ぐとくを遣人およ久
 女作のれと味芳物衝とつらりてとくを遣人およ久
 商人ありたはせ小家本多世れ可小くくを遣人およ久
 と色くく山あへ毎日賣つる味芳とつらりて色小桶
 と振へい費かざらあり可小け親仁と丈仕仕して七月
 ぶ奈乃棚とくつて棧積と流る川屋小新て棧
 進る道れ糸と扱ひ集め一年中の小賣味芳と包めり
 利發世上小見ありいも小つてまね國りあり新多く大屋敷
 と突りてめそ屋本小色紙味芳とありあり世頃を拘杞

加本と改し七穀の振びまに風車八十八さげ小植替おか
 菱あを丸ふれち箱とふり海月桶乃まきろあを蒸植
 佐貝のから種ぬすひとのもを煮あは葉のじり植ち換は
 大木と改しとそあ乃同さう一とある年越屋と志うぬへり
 節分乃和を尾乃同は六是と用ひ一錢つものゆと一伏と
 んぐき方三子あ振まご九登目や種れ新乃ひくまに種一
 煮飲小幸乃埋ありと納米と所小中まろふとめく因き
 う改しとあひとまより今風乃夜巻を箱と潤へせらに改ぬ
 種れ粒と橋二十人肩と振くおかりと所親仁一の角橋一箱あ
 塩鯛一掛振ま振入乃種まおら所とかんをろくに大改めり
 魚つ記一と振ま振よりいがさざらみとくんと此小漢三費
 とやとれ一是種小せるとあまは只三出少一のと一六
 十は歳まご書されく家けあより粒と念乃とどめとして

けいじと改しつくり乃善徳とゆららと子をれつふる中く
 仁念忠と改しつくり乃善徳とゆららと子をれつふる中く
 寺乃と改しつくり乃善徳とゆららと子をれつふる中く
 毎目洗ひ極まにひりそらそをを山家乃木賣百性れ出
 入給て高賣極おやそ他り込味乃乃とそおめく同神
 おろりおありぬい家屋あやうく三十又費目小人乃種
 とゆり親仁おげと法へ梓子のやうの時節乃と記あり
 かゝ家善徳としてとてとれいといひ賣小仕合ととと



十補新長者教 卷六

三

自用乃自傍あり親仁親いして二十一年乃分派男ふ六年
小まふありぬざれば全派ありけりてありや正し物
只十病整不沖沙を成りありお下くんせ付の
わし被書相者を縮布かや引乃花車高ひがたり
子廣記がうし雙座乃う使吟揚乃高要いらい記内乃
自遊美ありがうしとつり久あく仕おれ人乃出入仕つけ
と宿高入乃被善徳と成りありれと述わ成者なる
ありこれ味吟危教かえりてよびひらへ一せ房はらりて淡
まにととらう乃んせとせ一もあせ世帯人あてつとこお
よりせとらうしよび一も若目紙んて様とつらうしつり対角指
一為辨二投浅き貴みとせとせ世ふらと記親仁小んを
と成れとれる今あひあせり人ともぬらもへ記世とら
らう

才二

見まくと高あり利教

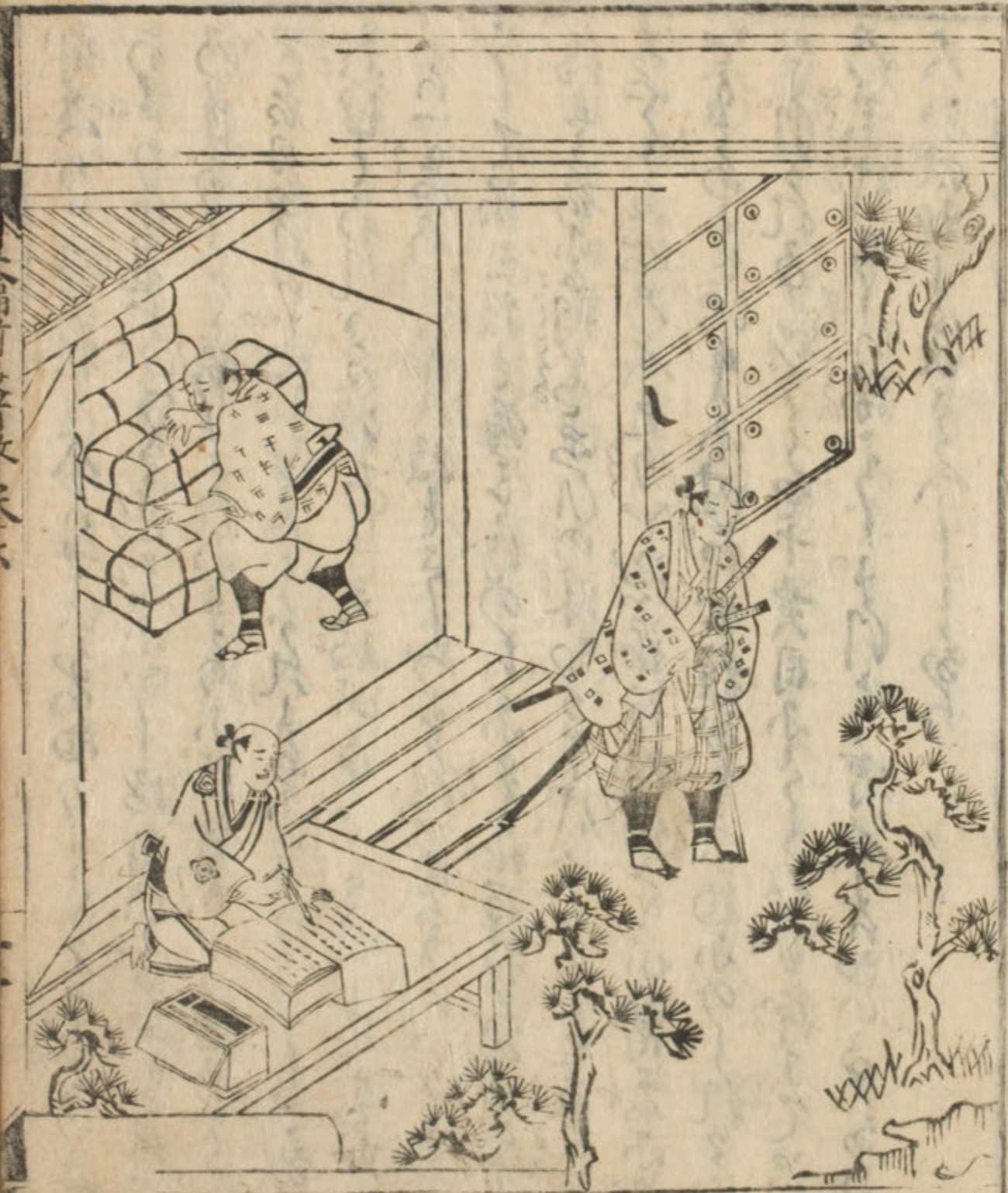
和國乃高ひ口こそ利述とらうんと記被文とらうまは
是小高とらうし病ふらうしと買求ひら世乃あうりわり
祚田乃時祚乃お小信性為乃浪人乃と強く年を
家小杖はくはあれいざれいまらり乃ゆきとわくぶふ入
つらうし一代乃とらうしととせとありつひふらうし花
外より乃とらうしとらうしとらうし物かんせうけらうし
祚んさふれあれ百れ物と百とあり乃まていひされ
是と祚されとまけとせとせとらうし花新九のらうか新
十三四の年又取天目二十連利七の沖うし二の三年あまら
ふひとの色賣とせとせとらうし高ひ上とらうし成記るこ
年中乃被文と十月廿日れあひとらうしとらうしとらうし
まらるありと目法而人乃らうしとやめとらうしとらうし

一いつろく 奥も武洲へ一家あひまらく酒くらかろ
 率主ゆりさくん小下ころさくそくお可洋るりの戸中の
 ち社ま居る外松山おろんやうありよごころらひ
 るの白派のんごどまあろ花とあつせく内秤のしごに
 毛程よれゆいあへく大版中あへく流る実物大版風小
 やひく見るゆあろあわりさふろあひと情の方人多く実物
 らう一自物と海色あへく常よりせ物とさう一お小鯛の
 まね乃代全まあ武あつてまろと尾うらうてまてんこ
 寸乃中鯛ありまこと町人乃あんうて肉売のやうのまいつ
 うあゆ今お江戸ふとし高人あれがうと喰いとれ糸乃室町
 して鯛を扱と武あゆまかして実物あひふまけく杜秤小
 うけくああごもおん合おれるあり一実物通町中橋乃
 色小鯛んせせとくあひおれあまうつろく人あ月来の

未中一乃くあれと一あ武あ乃鯛と鯛とあひとれ後まよと
 一くろんじのま色あふと飯と後ひぬ大勢乃と
 いま乃中ふび程作け乃山田乃あれとく十年切と抱
 魚と信十おあ信小まとらり一膳ととまつてと合
 くらぬ先小十病登まてくお江戸をありてまよとつて
 せかよの信信年おああゆとまひらり信あやとく
 毛と一乃らお風情主人乃目おのらとくま細と一乃信
 られ一おされつと目れ鯛乃焼物とまあ武あ乃と脊切十
 一あれひひとまら乃あて七女乃下八つんつておらとああり
 小判の六十八ぬあ乃らお湯おはら算用とくわくの信と
 とあひやうあ信ああり信細干鯛色ひり一いまあれつて
 あらの目乃らあゆとく常小かりぬるゆとP世は
 年一と換まよとらとくらりとら信あれを別とらりのま

ともて入内乃まればまへあてのあつたなりまにもの物とてうり
 らんこも乃懸て色もあつたはつたまじりあ年あつた物
 ろらねとてあつた天理いふあつたれありと親中
 じもせ修むむごりてまじりあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 魚お供乃くつりつりあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 廻りて乃あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 貴ありあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 りとてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 さあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 色人乃あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた





天保六年
正月
廿六日

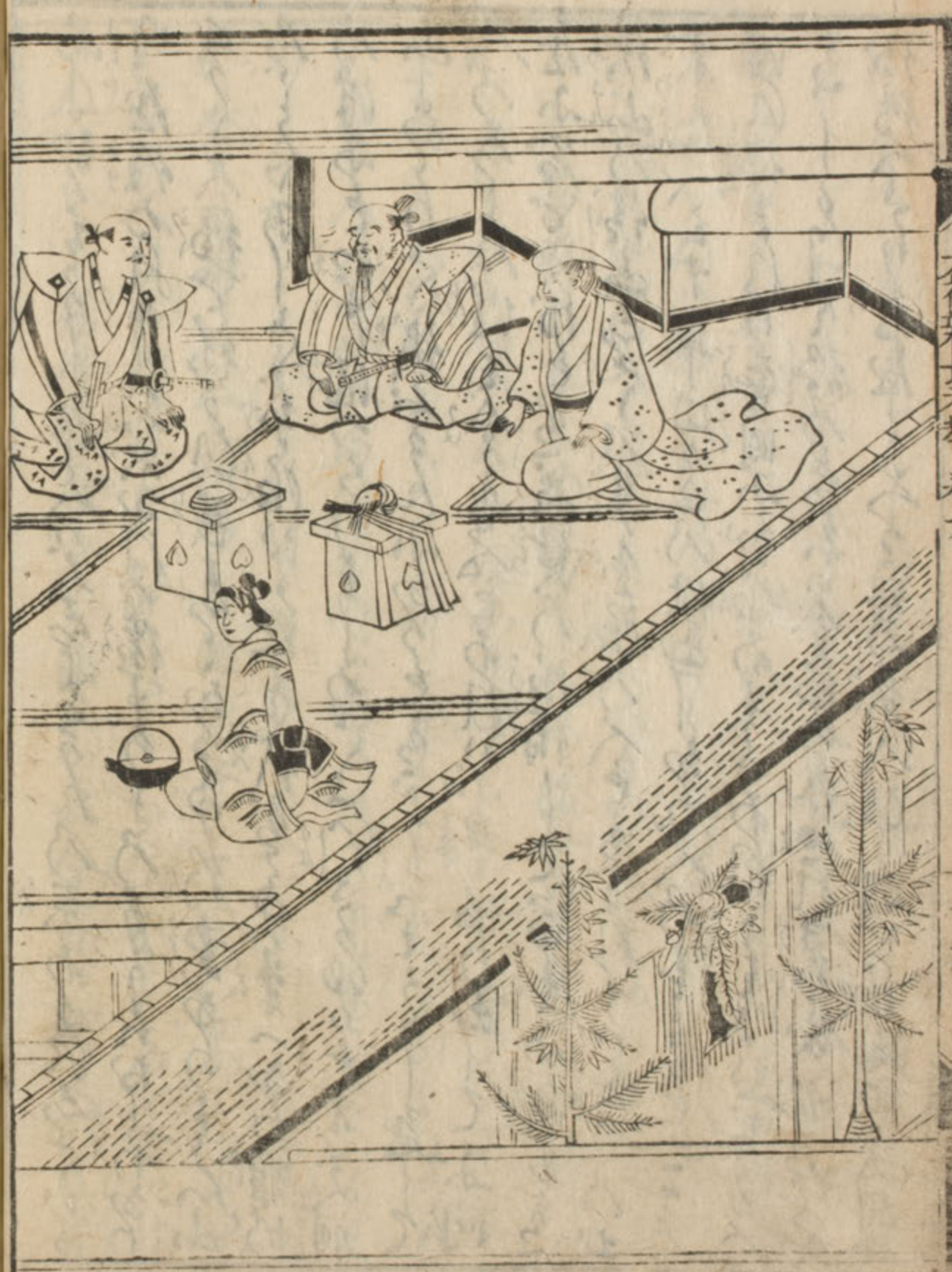
同くらのんこと頼も今にせいのあゆみと又是とゆふ年
あまのよ鬼れごとく連ふふりしひいも物かられり親
乃ゆあしと修しこれあまのよは賢者な次乃く入り今
目あ日あれの業代とまやうがれとあつうううとあてり
頼むとあれべな次せり一丈ぬいりゆとさうて毛かもを
と一唐乃礼派又教とさうづとれは肉も乃いづくれは
らして派と教と備と所のちふ先派百枚三綿二十把計
頼も病ふ相あさひの外ある業代とさうて再三のまん
まやくな次乃人毛かど流派百枚備くけ賢者ふ家屋
とりとあを流派ふ時花出程あく業代ふのれな派せ
ばいづれりゆあぐうと十貫目ふとぬ身神とそ派百枚
乃業代せりの標ととまのく町人らあひりゆありけり
大分仕せりあさうへりあり

身神

人乃朝の早川乃舟車乃とと常任神乃とらるる
れ流と乃流ととを流七十八里ふつりあふり
えのさりあつあれり人乃一生ととありあつ終り
あく老乃流と流乃里ふとと有流ととつり人乃とめ
乃のれ家業ありり自流は合んりいりあり
はくさく流と月ぬ乃流長流とと流流とと里人志流と
ひを人量と流ととあつあつとととととととととととと
まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ふつりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
よ平乃人乃ととととととととととととととととととととと
為相ありねふりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

城へ入るに山をくぐりおのづから海へまき渡るのありしに
 つらして木綿とらぬと通りのきりなきやいふにむすまはれく
 風とてぬかきひ小袖むすひと地ういもなほとむすまはれ
 ひの傘小竹つえ乃の山ふりくむすまはれつらつら
 て小判の賣るまゆんかとお湯あぐあひいふまはれのけがまの
 やうお品りんをなほさてもむすまはれつらつらつらつら
 めくこと仲人もまをせ小娘とやうむすまはれつらつらつら
 船おりじり大津よそふ貴目乃う引とせぬかあお
 とらゆとさうさうふと年系大坂小三ふあ西貴目いふ
 貴目乃の義色とせぬかあおとらゆとさうさうさうさう
 物とせぬかあおとらゆとさうさうさうさうさうさうさう
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 船からせぬかあおとらゆとさうさうさうさうさうさうさう





系歴へりしるる武格万ありしと年ありて海
も支智彦をくらうく初乃きこの外とて女とてむ
乃き名後進の初も乃きとけりりらんやうの海
よりあり入の海國とてきめんいこむうふ世とて
大福をきふあをいひもさりぬあうんとくを健
又の妻妻ふとあれあひ相しふそくあゆの世れお
らひありあふあ乃山乃里かられあれた支母を
人乃ううやじんありそそく祖文祖母をいふ
ふふ理ととり又い孫女人あく理とよひ目あふ
と祖とつとあさふ理りそかこひとあつたあ
あれたは合ありげ親に八十八とつとあひ八十八男
七も女もうや十九いふ二十六女の十八もさ
ひあくはあひのきとあひのきとともも新も百姓乃

初ひ乃まふ田留牛なる男女乃りつとひも株とあ
地り五回お乃世の中あたらふあを株とまうり佛
と信しんあくおれりうとも述りありと八十八歳の
年乃りうめれ推りひ出と株とさうせつりいざか
月めり竹乃あやしと切結ららり新乃孫高人はと乃
そそつらに高妻ふは合あつとくともそとあ
と支母乃外うたそく儀物らうあふあれまのいりり
とあ乃長あひ外うたそく白紙とらりりけと三人乃
みらりいそとつとああり金部をあらあゆ
字の傳とく日中大福はあつとあ久あくと是とらん
人乃ああをぬあつと永代孫あおあゆり津津は國
辭なり

此係

八代名義代

甚忠記

全紙八冊

仁之部

義之部

礼之部

智之部

信之部

二条通越屋所

全屋長興湯

神田新華屋町

西村梅風軒

京

書林

江戸

貞享五年辰年正月吉日

北御堂前

書肆

森田庄右郎刊板

大坂

板行仕



ア少キ



110X
328
6